



ご利用案内とアクセス

美術館は、市役所牛窓支所3階・4階に位置しています。来館の際は、庁舎と牛窓町公民館との間にあるエレベーターをご利用ください。

▷開館時間 午前9時～午後5時

※入館は午後4時30分までです。

▷休館日 毎週月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始、展示替え期間

▷観覧料（常設展）

- ・大人 400円
- ・団体（20人以上） 300円
- ・中学生以下 無料

※特別展の場合は別に定めます。

▷アクセス

◎電車・バスで

岡山駅からJR赤穂線（約30分）邑久駅下車／東備バス「牛窓行」（約20分）／紺浦（牛窓支所前）下車すぐ

◎車で

岡山ブルーライン「邑久IC」／県道39号線を「牛窓」方面へ（約6km）

▷駐車場

県道をはさんだ南側にあります（バス3台、乗用車48台）。

■問い合わせ先

瀬戸内市立美術館

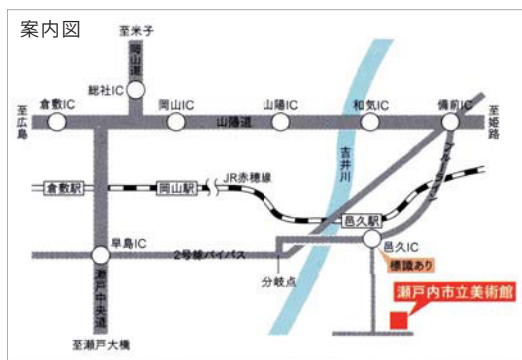
〒701-4392

岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓4911

☎0869-34-3130

FAX 0869-34-4790

<http://www.city.setouchi.lg.jp/~museum/>



瀬戸内市立美術館

館長

岸本真由

私は館長を務めさせていただき岸本真由と申します。何卒よろしくお願ひ申し上げます。今から約13年前、地元の有志の方から美術館開設の声が上がり、昭和38年に牛窓に制作の拠点を移され、終生牛窓を愛された佐竹徳画伯から平成9年に80点にも及ぶ秀作をご寄贈いただきました。亡き佐竹画伯並びに御遺族の方々に衷心より御礼を申し上げる次第であります。また、多くの方のご尽力無しには美術館開設は実現できなかったと思います。皆様に重ねて心より御礼を申し上げます。佐竹画伯は若くして、鹿子木孟郎・藤島武二・安井曾太郎など多くの巨匠との出会いがありました。特に坂田一男を介してのセザンヌ作品との出会いが画伯のその後に大変大きな影響を与えました。佐竹画伯は、昭和34年にご縁で牛窓に立寄られ、その赤土とオーリーブの緑に魅せられました。自然への畏敬の念を持ち、自然とひたすら向き合い描かれる画伯の制作姿勢はそのお人柄と共に多くの人に感動を与えます。佐竹画伯の世界をどうぞ心ゆくまで堪能いただけますよつご案内申し上げますとともに、今後とも瀬戸内市立美術館にご来館くださいますよつ心よりお願ひ申し上げます。

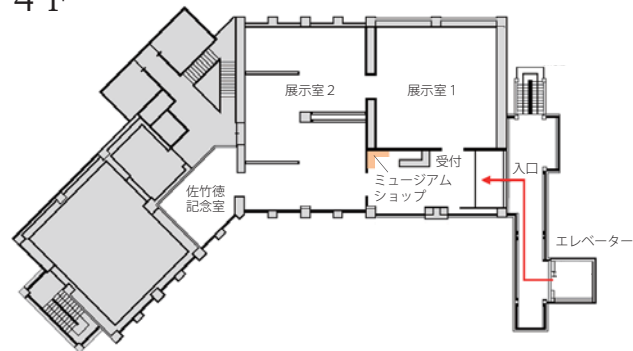
美術館では、市民が芸術・文化活動を通じて豊かな心を育み、瀬戸内市の魅力の草の根で発信し、地域が元気になるような拠点づくりを行っていくことにしています。その一環として、ギャラリーなどの貸し出しや、研修室で開催する美術講座などを通じて、市民や芸術家が活動の成果を発表し、学べる場所を作りたいと考えています。写真や絵画などあなたの作

品を展示してみませんか。▽使用料（1時間）
・ギャラリー 400円
・休憩コーナー 200円
・研修室 300円
※冷暖房料は100円です。
▽利用時間
午前9時～午後5時（開館日に限る）
※これらの施設を使用する場合は、事前に使用申請書を提出してください。美術館主催事業などのため、貸し出すことができない期間があります。詳細は美術館へお問い合わせください。

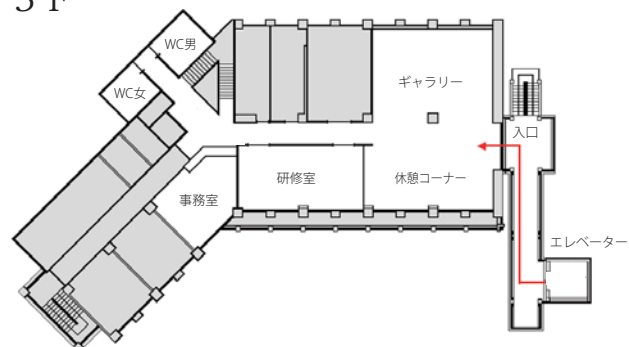
開館を迎えてのご挨拶

市民文化活動の発信地へ

4 F



3 F



美術館は、瀬戸内市役所牛窓庁舎の3階と4階に位置しています。旧牛窓町議会の議場であった場所も展示室に生まれ変わりました。平成22年3月に改修工事が完了し、さまざまな準備を進めてきました。この美術館からは牛窓の海を望むことができます。美術館を訪れた際には瀬戸内海の多島美もお楽しみください。4階の展示室1、展示室2、佐竹徳記念室では、佐竹画伯の作品を中心に美術作品を展示・紹介します。また、ミュージアムショップでは、絵はがきや一筆箋、「佐竹徳」図録などのミュージアムグッズを販売します。3階にはギャラリー、休憩コーナー、研修室を設置しており、一般の人への貸し出しを行います。ギャラリーでは市民や芸術家による文化・芸術活動の成果を発表することができます。ギャラリーの南側には休憩

コーナーがあり、瀬戸内の美しい海を見ながらくつろげるスペースとなっています。研修室では「絵画教室」や作品鑑賞会などの美術に関する講座や、ワークショップなどを開催する予定です。瀬戸内市ゆかりの芸術家の作品を紹介

美術館所蔵作品の中心は佐竹画伯の作品であり、佐竹徳画伯の人物と作品を広く発信していきますが、瀬戸内市にゆかりのある芸術家や作品も展示・紹介する予定です。本市は、竹久夢二や東原方徳をはじめとして、柴田義董や松岡寿などといった画家、書では大原桂南、写真では緑川洋一など芸術家を多数輩出しています。また、陶芸では、備前焼の森陶岳氏や虫明焼の黒井千左氏などが現在活躍しています。美術館は、これら市ゆかりの芸術家、芸術作品に関する研究拠点、資料センターとしての役割も担っていきます。